

スダ語の「di-動詞」構文と日本語の「(ーら)れる」構文との対照研究

イヌ イスナエニ シディック (名古屋大学大学院)

要旨

スダ語では、最も典型的な受け身表現は「di-」構文だといわれている。「di-動詞」構文は日本語の直接受身のように用いられ、中立と利害の意味を表す。とはいえ、スダ語の受身構文は常に日本語の受身構文と相互に対応するとは限らない。それを踏まえて本稿ではスダ語「di-動詞」構文の意味的な特徴を分析し、そして日本語の「(ー)れる」と比較しながら両者の相違点と類似点を分析した。

その結果、スダ語と日本語の直接受身は中立と利害の意味を表す点は共通しているが、日本語と違って、スダ語の直接受身文は命令法、指令法と丁寧さという派生的な意味を表すことができるということが分かった。その他、スダ語の「di-構文」はモダリティ表現や願望表現などのさまざまな表現の中で自由に用いられるが、日本語では能動文で表すことが一般的であるという点にも注目した。さらに、本稿ではスダ語と日本語の情報構造の違いについても分析を行い明らかにした。

1. はじめに

スダ語の教科書や記述などでは、スダ語において最も典型的で、頻繁に使用される受け身表現は「di-動詞」構文だといわれてきた。

(1) Budi ditengeul ku Ujang

ブティ「di-殴る」に ウジャング
“ブティはウジャングに殴られた。”

確かに、例(1)のような表現を見ると、スダ語の「di-動詞」構文は形式的・機能的に西洋言語学で受身と呼ばれるものと類似している。しかし、それは「di-動詞」構文のごく一部分であって、「di-動詞」構文にはその他の機能もある。そのため、英語や日本語の受け身表現に比べると、その使用頻度が多く、かならずしも他言語の受け身表現と一対一で対応するとは言えない。以下の例を観察しよう。

(2) Mangga dileut atuh.

どうぞ di-召し上がる 間投詞 (直訳:どうぞ召し上がられてください)
“どうぞ召し上がってください。”

(3) Baju teh diseseuh atuh!

服 間投詞 di-洗う 間投詞 (直訳:服を洗われる)
“(指示される)服を洗いなさいよ。”

(4) Nu kitu mah atuh bisa dipigawe ku si ujang oge.

そのような 間投詞 間投詞 できる di-する に ウジャング も (直訳:そんな事はウジャングにされることができる)
“それぐらいのことならウジャングさんもやれる。”

(5) Ibu dianos ku Pa Kades di kantor.

あなた(女) di-待つ に 村長 に 事務所 (直訳:あなたは事務所で村長に待たれている)
“村長さんは事務所であなた(女性)を待っている。”

(2)から(5)までの例は全て受け身表現ではあるが、西洋言語学とは異なる用法である。スダ語の母語話者

は日常的にそのような表現を頻繁に用いることによって「di-動詞」構文の使用頻度が高くなると思われる。また、それぞれの例の日本語の訳を見てわかるように、スンダ語では受身表現である「di-動詞」構文によって表される表現は日本語では能動文で表される。(2)の例は能動文の *mangga ngaleeut atuh* “どうぞ召し上がってください”でも表現できるが、受身表現を使うことによって命令の度合いが軽減され、相手に対して高い敬意を表す効果が得られる。(3)の例は受身表現による命令を表す。(4)の例では *dipigawe* の「di-動詞」構文は、*bisa* “できる”¹と共起することによって、“～されることができる”という受動的可能表現を表す。また、(5)の例は丁寧の意味を表し、それに対応する能動文の「N-動詞」構文でも表すことは可能だが、受身を用いて表すのが普通である。このように、スンダ語「di-動詞」構文は形式的に受身の意味を表しながらも、言語の運用においてさまざまな用法で用いられる。そのため、日本語の「～(ら)れる」に比べると使用頻度が高いと予測される。勿論、今までスンダ語の「di-動詞」構文と日本語の対照研究はなかったため、実際にはスンダ語の「di-動詞」構文が言語の使用上、どれほど日本語の「～(ら)れる」を上回るか、そしてスンダ語の「di-動詞」と日本語の「～(ら)れる」がどのような相違点と類似点をもっているかは未だ明らかではない。したがって、それらを明確にすべく、本章では「di-動詞」構文の意味と機能を分析し、日本語の「～(ら)れる」と対照を行う。

2. 「di-動詞」構文について

学校の教科書の中で、スンダ語の「di-動詞」(一部の例外を除き)²は受身といわれているが、日常的な言語活動では、単に受身を表すだけでなく、さまざまな用法で用いられる。これについて、以下で詳しく考察していく。

2.1 「di-動詞」構文の意味と機能

Budi (1996)は「di-」接頭辞の機能について能動態と受動態の両方を構成すると述べている。「di-」接頭辞は「*damel* ‘働く’ (丁寧)」と「*gawe* ‘働く’ (普通)」に付加される場合は能動態を構成し、また「*sapatu* ‘靴」や「*baju* ‘服」など体につけるものを指し示す名詞に付加されると、着る・履く・かぶるという意味の能動態を表す。この接頭辞は「*sada* ‘音」 という名詞に付加され能動態を構成し、「出す」という意味を表す。しかし「di-」接頭辞は上述した動詞と名詞以外に付加される場合は、受動態を構成するという。つまり、言語運用上、能動態を表す「di-」接頭辞に比べると受動態を表す「di-」は多くの割合を占めている。そのことから、スンダ語の学校文法では、一般的に前者は例外として取り扱い、「di-」接頭辞の機能は受動態を構成することだとされる。

2.1.1 「di-動詞」構文と「N-動詞」構文の情報構造の違い

発話者はある能動的な事象に関して全く同等な情報を能動態と受動態で聞き手に伝えることができる。その違いは、動作主に焦点を当てて主語の位置に置くか、もしくは被動作主に焦点を当てて主語の位置に置くかという点にある。それは、発話者が最も伝えたい情報は文頭に表れるという言語運用の一つの特徴の現れであると考えられる。つまり、受動態、もしくは能動態を使うかは話者次第であり、伝達する情報の内容には変わりがないということになる。しかし、本当に能動態と受動態が伝達する情報は同じだろうか。

デディステディ (2006) はスンダ語に近いインドネシア語の受動態と能動態が伝達する情報の違いについて次のように述べている。インドネシア語の談話レベルにおいて、ほとんどの場合は能動態で始まり、その話の

¹ スンダ語の *bisa* は意味的、用法的に英語の *can* に類似する

² スンダ語の「di-」接頭辞は *gawe · damel* (丁寧) “働く” と共起する場合、能動態を表す。

続きは受動態が用いられるという。そのことから、デディステディは、談話³レベルにおいて、能動文の被動作主句は新情報であるのに対して、受動文の被動作主句は旧情報であるとしている。はたして、スندا語の場合はどうだろうか。それを検証するために、以下の例を考察してみよう。

- (6) Kahar mindeng elat mayar iuran sakola, ku kuring sok
 カハル しばしば 遅れる N-払う 学費 に 私
 dipangnalangankeun. (Aam Amilia, 2008:30)
 di-救済してあげる
 (直訳：カハルはしばしば学費を遅れてはらった、私によってよく払ってあげられた。)
 “カハルはしばしば学費を滞納していたが、(その時)私はよく(それを)払ってあげていた。”

- (7) Panon Ajang meh teu ngiceup nenjo budak ngora tiluan keur
 目 アジャング ーないN-瞬く N-見る 若者 三人 機能語
 nurunkeun spanduk. Mun seug eta spanduk dibikeun ka manehna,
 N-下ろす バナー もし その バナー di-あげる に 彼
 tada teuing bungahna. Meureun adina moal karugrag, lamun imah
 どんなに うれしいこと おそらく 弟 ーない 再発病する もし 家
 kardusna dituruban ku spanduk. Sawareh bisa dipake keur simbut
 段ボール di-被せる に バナー 一部 できる di-使う ーために 毛布
 adina. (Aam Amilia, 2008 : 7)
 弟
 (直訳：アジャングの目は瞬かずに、バナーを下ろしている三人の若者をみている。もしそのバナーは彼にあげられたらどんなにうれしいことだろう。彼の段ボール家(仮設住宅)がバナーに被せられたらおそらく弟は再発病しないだろう。一部は弟の毛布の為に使われることができる。)
 “アジャングは目を瞬かずにバナーを下ろしている三人の若者を見ている。もしそのバナーを彼にくれたらどんなにうれしいことか。彼の仮設住宅にバナーを被せたら、弟の病気も再発しないだろう。またバナーの一部は弟の毛布としても使うことができるだろう。”

- (8) Baju haneut pamere Si Cikal dicakepkeun lebah dada, da karasa
 服 暖かい あげたもの 第一子 「di-寄せる」 方向 胸 ーだから 感じられる
 angin tiis nyelesepe tina jandela. (Aam Amilia, 2008:37)
 風 冷たい 「N-忍ぶ」から 窓
 (直訳：第一子のあげたものである暖かい服(厚着)は胸の方向に寄せられた、なぜなら、冷たい風が窓から吹いていたからである。)
 “冷たい風が窓から吹いてきたので、長男がくれた厚着を胸に寄せた。”

例(6)と例(7)を見て分かるように、文頭は「N-動詞」構文で始まり、そして「di-動詞」構文はその後に用いられる。例(6)では被動作主である「学費」は「mayar」=「N-払う」構文によって聞き手に新情報として伝達される。そのため、次の文では聞き手が「学費」を旧情報として既に把握したため、「学費」という被動作主は省略され、「di-動詞」構文によって表される。例(7)の最初の文は複文であるが、主節の述語は「nenjo」=「N-見る」であり、従属節の述語は「nurunkeun」=「N-下ろす」である。前者が伝達する新情

³ 文が連なって、まとまりのある内容を表している場合、その連なりを談話と呼ぶ(佐久間、加藤、町田：2006)。

報は「バナナを下ろしている三人の若者」で、後者が伝達する新情報は「バナナ」である。そして、その続きの文では聞き手が把握した旧情報である「バナナ」が話の主題になり、「di-あげる」と「di-被せる」と「di-使う」の「di-動詞」構文で表現される。さらに、最後の文では「バナナ」が省略されているが、聞き手の頭の中に旧情報としてあるため、解釈に支障は生じないわけである。例(8)は、例(6)と(7)同様に短編小説の始まりだが、上記の二つの例と違って例(8)では「di-動詞」構文が用いられている。そうすると、話題となる新情報を伝える始まりの文としての機能と、旧情報を伝達する「di-動詞」構文の機能の間に矛盾があるように見えてしまう。しかし、例(8)を詳しく分析すると、矛盾がないということがわかった。その要因は「pamere Si Cikal “長男のあげたもの”」という副詞節にある。「pamere」という単語を分解すると『pa-「N-bere “あげる”」』からなっている。つまり「厚着」は「di-動詞」構文が伝える旧情報であると同時に「長男があげた」を含意する「長男があげたもの」が伝える新情報でもある。また、他の要因として、例(6)と(7)と違って、「厚着」は最初の文において被動作主の役割を担っているが、次の文では話題とされていないということも考えられる。

上記の議論をまとめると、スダ語の「di-動詞」構文が伝達する情報は「N-動詞」構文が先導文で伝える新情報を旧情報として話し手から聞き手に伝達するものと言えよう。またスダ語では「N-動詞」構文は動作主主題フォーカスであるのに対して、「di-動詞」構文は被動作主主題フォーカスであると考えられる。

2.1.2 日常言語使用における「di-動詞」構文の意味

本稿では「di-動詞」構文の意味を二つに分けて考察を行う。即ち被害、中立と受益の形態的な意味と命令法と丁寧さの派生的な意味である。形態的な意味には3つの意味があるが、それらの意味は構文がもたらした意味ではなく、動詞の語彙的な意味や文脈によって生じる意味である。一方、派生的な意味は「di-動詞」構文によって生じる意味である⁴。それらについては詳しく以下に述べる。

2.1.2.1 スダ語の「di-動詞」構文の形態的な意味

(9) Budi dicarekan ku Ibu guru lantaran teu ngerjakeun peer.

ブディ di-叱る に 先生 から ーない やる 宿題

“宿題をやらなかったから、ブディさんは先生に叱られた。”

(10) Buku urang diinjeun ku Budi.

本 私 di-借りる に ブディ

“私の本はブディさんに借りられた／借りられている。”

(11) sandal urang dipaok di masjid.

サンダル 私 di-盗む で モスク

“私のサンダルはモスクで盗まれた。”

(12) Kuring kamari dipangmeulikeun tas ku kang Adud.

私 昨日 di-+pang-買う-keun かばん に アドゥッド

“私は昨日アドゥッドさんに鞆を買ってもらった。”

例(9)、(11)は被害、つまり被動作主がその事象によって望ましくないことを受けたという意味を表す。例(10)は事象によって被動作主が利害関係の影響を何も受けていないため、この文の「di-動詞」構文は中立の意味を表すと考えられる。そして(12)は被動作主が動作主に「ーしてもらおう」という受益の意味を表す。

⁴ デディステディ (2006: 307) は性質的にスダ語に近いインドネシア語において「di-動詞」構文は談話レベルで指令法と丁寧さという派生的な意味が考えられると述べた。

2.1.2.2 スダ語「di-動詞」構文の派生的な意味

上に述べたような形態的な意味の他に、スダ語の「di-動詞」構文は日常の言語使用の中で派生的な意味を表すことができる。それは命令法と丁寧さの意味である。その要因は、スダ語では最も注目したいことを文頭に置くという特徴を持つからだと考えられる。デディステディ (2006) はインドネシア語に関して最も言いたいことを focus (焦点) と名付けた。彼はインドネシア語の「meng-動詞」は subject focus, 「di-動詞」は action focus 又は object focus と述べた。スダ語もそれと同じような性質を持っているが、本稿では一般言語学ですでに知られている焦点 (Focus) と混乱しないように、動作主主題フォーカスと動作主題フォーカスと被動作主主題フォーカスという用語を使用する。以下の例を観察してみよう。

(13) a. Pulisi newak bangsat kamari. (動作主主題フォーカス)

警察 N-逮捕する 泥棒 昨日

“昨日警察は泥棒を逮捕した。”

b. Bangsai ditewak ku pulisi kamari. (被動作主主題フォーカス)

泥棒 di-逮捕する に 警察 昨日

“昨日泥棒は警察によって逮捕された。”

c. Ditewak(na) bangsat teh ku pulisi kamari. (動作主題フォーカス)

di-逮捕した 泥棒 間投詞 に 警察 昨日

“泥棒が警察に逮捕されたのは、昨日だ。”

このようなフォーカスは命令法を含めて、さまざまな法 (ムード) を表す文の中でも適用される。

a. 命令法 (imperative)

命令法とは命令・要求・懇請 (否定の場合は禁止) など、相手に対する注文を述べるものをいう。一般的に、多くの言語では命令法は能動文によって表されるが、スダ語では能動文と受動文を使って表すことができる。以下の例を見てみよう。

(14) Seseuh atuh baju teh!

洗う 間投詞 服 間投詞

“服を洗え。”

(15) Baju teh diseseuh atuh (ku maneh)!

服 間投詞 di-洗う 間投詞 に あなた

直訳: 服は洗われ。→ “服を洗え。”

(14)と(15)は「相手に服を洗うように」という全く同一の命令を表すが、スダ語では(15)のように被動作主を焦点化して受身文による命令が可能である。また動作主は第二人称の聞き手であるという共有知識があるため、文の中では省略されても解釈に支障がない。

b. 指令法 (jussive)

指令法は命令法の一つであるが、aで取り上げた命令法とは違って、指令法は相手に直接命令するのではなく、主に第三人称に対して間接的に指示を与える法である。つまり、話し手が聞き手にやってもらいたいことを直接言わずに、あたかも相手以外の第三者にやってもらおうとするかのように間接的に依頼を伝える。

(16) Nu, abdi ngintun email, punten dibuka deui.

ヌ、私 N-送る メール、すみません di-開く 再度

“イヌさん、私がメールを送ったので、すみませんが再度開いてください。”

(直訳: ……、すみませんが再度開かれています。)

(17) Punten mailna dicek sakeudap deunya!

すみませんメールna di-チェックする しばらくしたら 後

“すみません、後しばらくしたらメールをチェックしてください。”

(直訳：……、後しばらくしたらメールをチェックされてください。)

文の構造から見ると、(15)と(16)と(17)はいずれも同じように見えるが、(15)では開き手が命令されていると感じるのに対して、(16)と(17)では直接命令されたというニュアンスがなく、丁寧にお願いされると感じる。その要因は(16)と(17)の「メールを開きますように」そして「メールをご確認いただきますように」という言い方にある。(15)の「di-動詞」構文と違って、(16)と(17)の「di-動詞」構文は *punten* “すみません”と *mangga* “どうぞ”と一緒に使用されることによって、指令法のニュアンスが発生したと考えられる。

c. 丁寧さ(Politeness)

スندا語にも日本語のように敬語体系⁵があるが、「di-動詞」構文を使うことによって丁寧さがさらに増すと考えられる。以下の例を観察してみよう。

(18) Bapak kepala sakola ngantosan Ibu di kantorna.

校長先生 (男性) 待つ (尊敬語) あなた (女性) で オフィス-na⁶

直訳：“校長先生は校長室であなたをお待ちになっています。”

→ “校長先生は校長室であなたをまっています。”

(19) Ibu diantosan ku Bapak kepala sakola di kantorna.

あなた di-待つ (尊敬語) に 校長先生 で オフィス-na

直訳：“あなたは校長室で校長先生にお待たれになっています。”

→ “校長先生は校長室であなたをまっています。”

(18)と(19)も両方 *antosan* “待つ (尊敬語)” という尊敬語用の単語を使っているが、話し手が *ibu* “あなた (結婚した女性)” “を相手に直接話す場合は、(19)の方が丁寧である。それは(19)では受身文を使うことによって相手である被動作主を焦点化し、主役として立てているからである。そのため、同じ尊敬語を使うとしても相手を主役として立てることによって、相手に対する敬意も一層強く表すことができると考えられる。つまり、丁寧さも命令法と同じように被動作主主題フォーカス というスندا語の性質から派生した意味であるといえよう。逆に、相手が動作主である場合は動作主フォーカスである能動態を用いるのが普通である。

(20) Bapa, bade ngantosan Ibu di mana ?

あなた (結婚した男性) Will N-動詞 彼女 で どこ

“あなたはどこで彼女をお待ちになりますか。”

勿論、「di-動詞」構文は基本的に直接受身であるため、(19)のような表現を用いる場合は語幹となる動詞は他動詞でなければならない。また、そのような用法は被動作主が第二人称の場合のみに限る。そのため、(19)と同じような文でも、被動作主が第三人称 (非情物を含む) の場合、(19)のようなニュアンスは発生しない。

(21) A: Komputer di mana ?

パソコン に どこ

“パソコンはどこですか。”

B: Komputer dicandak ku Bapa ka kantor.

パソコン di-持っていく (尊敬語) に 父へ 事務所

“パソコンは父によって事務所へ持っていかれた。”

⁵ スندا語では *undak usuk basa* と呼ばれる敬語体系があるが、日本語のように特別なパターンによって生産的に作られるのではなく、それぞれの単語のために敬語の各レベルにおいて全く同一の意味を表す形式がある。

⁶ -na というのは第三人称の所有各を表す *clitic* である。

(21) を見てわかるように、Bさんはパソコンを文頭に出現させているが、彼が尊敬語で表した敬意はパソコンではなく、動作主である父に向けられている。

2.1.3. 「di-動詞」構文とさまざまな表現との共起性

スンダ語では被動作主主題フォーカスがあるため、通常能動文で表される表現も受動文で表すことができる。以下にそれらについて詳しく述べていく。

2.1.3.1 モダリティ表現との共起性

モダリティの役割とは能力、許可、推量、蓋然性の意味を文に付け加えるものである(山田:1990)。スンダ語のモダリティは述語動詞の前にモーダル助動詞を置くことによって表される。

(22) Urang kudu indit ka sakola. (義務)

私 ーしなければならぬ 行く へ 学校

“私は学校へ行かなければならぬ。”

(23) Maneh meunang balik gancang poe ieu. (許可)

あなた ーしてもよい 帰る 早い 日 この

“あなたは今日早く帰ってもいい。”

(24) Pulisi bisa newak bangsat. (能力)

警察 できる 逮捕する 泥棒

“警察は泥棒を逮捕することができる。”

例(22)ー(24)を見て分かるようにモダリティ表現は一般的に動作主主題フォーカスの能動態で表すが、スンダ語ではobject focusである受動態で表すことも可能である。

a. 能力

スンダ語の可能表現は述語動詞の前にbisa助動詞を置くことによって作られる。その助動詞は能動態の「N-動詞」構文だけではなく、受動態の「di-動詞」構文に置くこともできる。

(25) Indung urang bisa nyieun kantong tina baju urut.

母 私 できる N-作る 鞆 から 服 中古

“母は古着から鞆を作ることができる。”

(26) Baju urut bisa dijieun kantong ku Indung urang.

服 中古 できる di-作る 鞆 by 母 私

→直訳:古着は母によって鞆に作られることができる。

“古着から鞆を作ることができる。”

動作主主題フォーカスの文である(25)では、母は古着から鞆を作ることができるが、他の人はできないかもしれないということを表す。一方、被動作主主題フォーカスの文である(26)は、古着からなら鞆を作ることができるが、他の同質のものからだと作れないかもしれないという意味を含意する。

b. 義務・許可・禁止

スンダ語の義務表現は述語動詞の前にkudu助動詞を置くことによって作られる。また、禁止表現は述語動詞の前にteu meunang若しくはtong助動詞を置くことによって作られる。

(27) a. Urang kudu nyeseuh baju.

私 ーねばならぬ N-洗濯する 服

“私は服を洗濯しなければいけない。”

b. Baju kudu diseseuh (ku urang).

服 ーねばならない *di*-洗濯する

→直訳：服は（私に）洗わなければいけない。

(28) a. Saha wae meunang make imah ieu asal bisa mayar.

だれーでも ーしてもよい *N*-使う 家 この さえ できる 払う

“払うことさえできれば誰でもこの家を使ってもいい。”

b. Imah ieu meunang dipake ku saha wae asal bisa mayar.

家 この ーしてもよい *di*-使う に だれ ーでも さえ できる 払う

“払うことさえできればこの家はだれにでも使われてもいい。”

(29) Tong diinum cai teh, kotor!

ーするな *di*-飲む 水、汚い

→直訳：飲まれるな、その汚い水を。

2.1.3.2 願望表現との共起性

スندا語の願望表現は述語動詞の前に *hayang* 又は *hojong* (丁寧) を置くことで作られる。この助動詞も *N*-動詞構文と *di*-動詞構文の両方と共起することができる。

(30) Bapa hayang mere duit ka si Ujang.

父 ーしたい *N*-与える お金 にウジャング

“父はウジャングにお金を与えたがっている。”

(31) Ujang hayang dibere duit ku bapa.

ウジャング ーしたい *di*-与える お金 by 父

→直訳：ウジャングは父にお金を与えられたがる。

“ウジャングはお父さんにお金を貰いたがっている。”

(32) Urang hayang meuli buku.

私 ーしたい *N*-買う 本

“私は本を買いたい。”

(33) *Buku hayang dibeuli ku urang.

本 ーしたい *di*-買う by 私

“本は私に買われたがっている。”

能動文である例 (30) と受動文である例 (31) は対応しているように見えるが、実際はそうではない。例 (30) では Bapa はウジャングさんにお金をあげたがっているが、ウジャングさんはもらいたいとは限らない。一方、例 (31) ではウジャングさんがお金をもらいたいということは確かだが、Bapa がウジャングさんにお金をあげたがっているとは限らない。つまり *hayang* という助動詞は文の主語に立つ者の意図性を表すものであるため、形式的には対応している能動文と受動文のように見えても、願望表現の場合は必ずしも対応しているとは限らない。また、願望表現と共起する「*di*-動詞」受身文は主語が有情物でなければならない。そのため、例 (33) は不適格な文になる。更に、例 (31) の「*di*-動詞」構文の主語は動作主から何らかの利益を受けるためこの例の「*di*-動詞」構文は被動作主主題フォーカスというより、むしろ受益者主題フォーカスであると考えられる。

2.1.3.3 難易表現との共起性

スンダ語の難易表現は述語動詞の前に babari (易しい) /hese (難しい) を置くことによって表される。述語動詞自体は「N-動詞」でも「di-動詞」でも可能だが、難易が動作主的能力によって発生するか、もしくは被動作主の性質によって発生するかという点で異なる。難易原因が動作主の場合には「N-動詞」構文を使用し、原因が被動作主の性質の場合は「di-動詞」構文を使用する。以下の例を見てみよう。

(34) a. Hese mawana atuh ari gede kitu mah.

難しい N-持って行く ーなら 大きい そのように
“そんなに大きければ持ち歩きにくいよ。”

b. Hese dibawana atuh ari gede kitu mah.

難しい di-持って行く ーなら 大きい そのように
直訳→そんなに大きければ持ち歩きにくいよ。

(35) Microsoft word nu anyar leuwih babari dipake tibatan nu saacanna.

マイクロソフトワード 新しい より 易しい di-使う ーに比べると その前の
“新しいマイクロソフトワードはその前の(もの)に比べるとより使いやすい。”

例 (34a) は他人であればその大きさの荷物を持ち歩くことができるかもしれないが、動作主が自分にはその大きさの荷物なら運ぶ能力がないから持ち歩くことが困難であるという意味を表している。一方、例(34b)と(35)の難易は両方とも被動作主の性質によって発生している。(34b)は動作主が誰であろうが、荷物が大きすぎるため、持ち歩くことは困難だという意味を表している。(35)は新しいマイクロソフトワードの性能が以前の版よりよくなったので、利用者にとって使いやすくなったという意味を表している。つまり、難易原因が被動作主であるマイクロソフトワードの性能であるため、「di-動詞」構文が用いられている。

3. 「di-動詞」構文と日本語の「(ー) れる」との対照

本章では上で考察してきたスンダ語の受身表現である「di-動詞」構文の特徴と日本語の「(ー) れる」の特徴の類似点と相違点を明らかにするために両者を対照して、考察する。しかし、その前に本章では日本語の受身について簡単に触れることにする。

日本語の受身文は形態的に「(ー) れる」によって表現されるが、構文的に分類すると直接受身と間接受身があると述べられている(寺村:1982)。さらに直接受身は有情物受身と非情物受身、そして間接受身は所有物受身(持ち主受身)と非所有物受身に下位分類される。例(36)～(40)を参照。

(36) 花子は太郎に褒められた。(有情物・直接受身)

(37) 指輪が泥棒に盗まれた。(非情物・直接受身)

(38) 花子は太郎に頭を叩かれた。(所有物受身/持ち主受身)

(39) 花子は先生に作文を褒められる。(所有物受身/持ち主受身)

(40) 太郎は近くの音大生に一晩中ピアノを弾かれた。

(影山:2004)

意味の観点からみると直接受身文と所有物受身は中立と利害の意味を表すが(例36、37、38、39)、非所有物受身文は主に被害の意味を表す(例40)とされている。

3.1 情報構造の違いについての対照

2.1.2 で述べたように、談話レベルにおいて、スンダ語の「di-動詞」構文によって伝達される情報は旧情報であるため、「di-動詞」構文は談話の冒頭には出にくい傾向があり、通常聞き手に新情報を伝達するためには

「N-動詞」構文が用いられる。一方日本語の情報構造は「ハ」の主題マーカーによって区別されるといわれている。これについて、佐久間 (2006:93) は、文レベルにおいて、ある文は構造上、旧情報は文の主題として出現し、「ハ」主題マーカーによってマークされる。そしてその旧情報に付け加えられた新情報は主題に対する評言として「ハ」の後ろに現れるとしている。そして日本語の文の場合は、主題は「ハ」格助詞によってマークされると述べたが、情報の新旧の区別は文脈の流れの中でその都度決定されるということにも言及している。果たして、談話レベルにおいて、日本語の情報構造はどのようになっているのだろうか。それを明らかにするために以下の例を観察しよう。この例の話題は学費であるが、その学費という情報が両言語の談話レベルにおいてどのように出現するかを見てみよう。

- (41) Kahar mindeng elat mayar iuran sakola, ku kuring sok
カハル しばしば 遅れる N-払う 学費 に 私
dipangnalangankeun. (Aam Amilia, 2008:30)
di-救済してあげる

(直訳：カハルはしばしば学費を遅れてはらった、私によってよく払ってあげられた。)

“カハルはしばしば学費を滞納していたが、(その時)私はよく(それを)払ってあげていた。”

例を見て分かるように、スダ語の場合、冒頭で新しい情報として出現した学費は「払う」の述語動詞の直接目的語となり、能動文である「N-動詞」構文によって取り上げられる。それに対して、次の文では学費という新情報が旧情報になり、主語として受動文である「di-構文」によって表される。一方日本語の訳を見ると、冒頭でも次の文でも述語動詞の目的語として能動文によって取り上げられていることが分かる。そのような両者の違いは有生性と深く関係していると考えられる。スダ語の場合は有生性の程度に関係なくどのような名詞でも比較的自由に文の主語として現れることができる。それに対して日本語の場合、ある文の中で有生性の高い名詞の方が主語になりやすいとされる。そのため、有生性が低い名詞でも、スダ語では最初の文の目的語で取り上げた新情報を次の文では主語として受身文によって表すことができるが、日本語の場合は主語に成りにくいいため、最初の文と同じように、次の文において旧情報として現れる時も主語にはなれず、能動文の目的語として現れることになる。

3.2 意味と機能についての対照

- | | スダ語の「di-動詞」構文 | | 日本語の「〜(ら)れる」 |
|------|--|---|----------------------|
| (42) | Urang ditenggeul ku Budi.
私 di-殴る に ブディ
“私はブディに殴られた。” | ⇔ | 私はブディに殴られた。 |
| (43) | Budi dipuji ku indungna.
ブディ di-褒める に 母親
“ブディは母親に褒められた。” | ⇔ | ブディは母親に褒められた。 |
| (44) | Buku urang diinjeum ku Budi.
本 私 di-借りる に ブディ
“私の本はブディに借りられた。” | ⇔ | △私の本はブディに借りられた。 |
| (45) | Yayasan rancage didirikeun taun 1980.
財団 ランチャグ di-設立する年
1980 | ⇔ | ランチャグ財団は1980年に設立された。 |

“ランチャゲ財団は 1980 年に設立された。”

- (46) Urang dipangmeulikeun kantong ku ⇔ *私は父に鞆を買われた。
私 di-買ってあげる 鞆 に 私は父に鞆を買ってもらった。
bapa
父
“私は父に鞆を買ってもらった。”
(直訳：私は父に鞆を買ってあげられた。)
- (47) Ibu diantosan ku Bapa di ⇔ *あなたは彼によって待たれている。
あなた (女性) di-待つ 彼 (丁寧) で
kantor.
オフィス
“あなたは彼にオフィスで待たれています。”
- (48) Baju teh diseuseuh atuh ⇔ *服は洗われろ。
服 間投詞 di-洗う間投詞
“服ってさ洗われろよ。”
- (49) Si Budi sapatuna dipaok di masjid. ⇔ ブディはモスクで靴を盗まれた。
ブディ 靴-彼の di-盗む で モスク
“ブディはモスクで靴を盗まれた。”
(直訳：ブディは彼の靴をモスクで盗まれた。)

上に見てきたように、スダ語では有情物とともに非情物も受身文の主語に成りうる。一方日本語では有生性が高い方が主語になりやすいという傾向があるため、(45) のように何らかの特徴付けがなければ、非情物は主語に成りにくくなる。そのため、スダ語の(42)～(45)の例のうち、日本語と意味的に一致して、対応しているのは例(42)と(43)のみとなる。例(44)では両者が構文的に対応しているが、意味的には異なっている。スダ語の文は中立の意味を表すのに対して、日本語の文は被害を表すと考えられる。また、スダ語と日本語の受身は中立と利害の意味を表す点では共通しているが、日本語と違って、スダ語の受身文は例(47)と(48)のように命令法と丁寧さという派生的な意味を表すことができる。確かに日本語でも尊敬語として「(ー)られる」助動詞が用いられるが、尊敬語は常に能動文の構造で用いられるので、受動文の「(ー)られる」とは違う。そのため、例(47)の日本語の文は尊敬の意味を表すこともできないし、受身文としても不適格と考えられる。たとえ、無理して受身文として解釈しても、その意味は尊敬とは真逆で被害の意味を表すことになる。一方スダ語では日本語の謙讓語と尊敬語のような敬語が両方他動詞と自動詞の形式で存在するが、他動詞の場合、能動文として用いられるより「di-動詞」構文を使って受身文として表現した方が相手に対する敬意が増す。また、スダ語の「di-構文」は命令法として用いることができるのに対して、日本語の命令法は基本的に能動態で表す。確かに、日本語でも受身文を用いた命令文が見られるが、語用論の観点から見ると、両者の違いは明確である。

(50) 被害者の親のところに行って被害者にしたようなこと私にもしていいですって言って殺されろ。

(51) じゃあ自分は割れたビンで顔を切られるともでも言うのですか。

(52) 男なら黙って殴られる。

(53) そのまま殴られると普段はいつています。エホバの教えでは、暴力は禁止されています。

例(50)～(53)は形式的には受身文であり、命令法を表す。しかし、『相手に実際にある事柄をやってもらおう』という意味を表すスダ語の例(48)とは違って、日本語の例はいずれも『実際に相手にやってもらおう』可能性はきわめて低い。つまり、語用論上、例(50)～(53)で分かるように、日本語の受身文による命令法は相手に対して不満をぶつけて批判をしたり、相手に迷惑を甘んじて受けてほしいという意味を表したりする。

そして例(46)を見ると分かるように、受益を表すスダ語の「di-pang-動詞-keun」構文は日本語の「～(ら)れる」とは対応せず、むしろ意味的に日本語の授受表現である「～てもらおう」と対応すると考えられる。最後に、例(49)では、スダ語の文は所有物受身といわれる日本語の訳の文と意味的にも構文的にも対応していることが分かった。スダ語の文と日本語の文の両方で、主語と動作主の働きかけの対照となる目的語の間に所有関係が成立する。そのため、動作主が起こした行為は直接に主語に向けられなくても、その影響は主語まで及んだと考えられる。このようにスダ語にも主語の位置に立つのは第三人称でなければならないという条件と働きかけの対照となる名詞句の後ろに第三人称の所有格を表す「-na」を付けるという条件さえ満たせばそのような構造の受身文を生産的に作るができる。

3.3 他のさまざまな表現との共起性についての対照

2.1.4で述べたようにスダ語の「di-構文」はモダリティ表現や願望表現などのさまざまな表現と共に自由に用いられる。それに対して、例(26)～(35)の日本語の訳を見れば分かるように、その殆どは「～(ら)れる」構文と対応せず、日本語では能動文で表すのが一般的である。その要因は、両者の項の特徴の違いにあると思われる。スダ語の名詞は有生性の程度と関係なく文の主語として出現することができるのに対して、日本語の場合は有生性の低い非情物に比べて、人間などのような有生性の高い名詞の方が動作主として主語の位置に現れやすい。そのような事実は、日常的な言語使用において、日本語の受身文に比べてスダ語の受身文の使用率が高い要因だと考えられる⁷。

4. まとめと今後の課題

本稿ではスダ語の受け身表現を表す「di-」構文を統語論的、形態論的、意味論的な観点から考察し、分析をおこなった。その後、日本語の受身文と比較して、両者の類似点と相違点を記述した。今後の課題として、もう一つのスダ語の受け身表現の手段とされる「ka-動詞」構文の特徴を明らかにして日本語の「～(ら)れる」との対照研究を行いたい。さらにスダ語の受身表現と動詞の制約について追求し、動詞の制約と受身構文の関係についても明らかにしていきたい。

参考文献

Coolsma, S.(1985) *Tata Bahasa Sunda*. Terjemahan Husein Widjadjakusumah dan Yus Rusyana. Jakarta: Djambatan

Djajasudarma, T.F. (1980) *Tata Basa Sunda*. Bandung: Rahmat Cijulang.

Karna Yudibrata (1989) *Bagbagan Makena Basa Sunda*. Bandung: Rahmat Cijulang.

Kats, J&M.Sociadiradja (1982) *Tata Bahasa dan Ungkapan Bahasa Sunda*. Terjemahan Ayatroedi. Jakarta: Djambatan.

⁷ Inu (2012:344-351)を参照

Inu Isnaeni Sidiq (2012) *International Seminar on Improving The Competence of Conversation Skill in Learning Japanese Language in Secondary and Higher Education in Indonesia* p.341 -351 (proceeding): Asosiasi Studi Pendidikan Bahasa Jepang Indonesia.

Quirk, Randolph, et al (1972) *A Grammar of Contemporary English*. London: Longman Group Ltd.

R.H. Robins (1970) *Diversions of Bloomsbury* North-Holland Publishing Company

R. H. Robins (1983) *Sistem dan Struktur Bahasa Sunda* Penerbit Djembatan (terjemahan)

R.A Danadibrata (2006) *Kamus Basa Sunda*. Bandung: PT Kiblat Buku Utama

Sumarsono, Tatang. (1995) *Maher Basa Sunda*. Bandung : Geger Sunten.

Tamsyah, Budi Rahayu. 1996. *Gahring Basa Sunda*. Bandung: Pustaka Setia.

影山太郎・岸本秀樹 2004 『日本語の分析と言語類型—柴谷方良教授還暦記念論文集』くろしお出版

久野暉 1978 『日本文法研究』大修館書店

佐久間淳一・加藤重広・町田健 2006 『言語学入門』研究社

高見健一 1997 『機能的統語論』くろしお出版

デディ ステディ 2006 『インドネシア語の「di-動詞」構文と日本語の「(〜ら)れる」との対照研究』日本言語文化研究会論集第2号 2006年度

寺村秀夫 1982 『言語の対照的分析と記述の方法, 講座日本語学 10』明治書院

許明子 2004 『日本語の受身と韓国語の受身文の対照研究』ひつじ書房

山田小枝 1990 『モダリティ』同学社

データの抽出

スندا語の月刊 “CUPUMANIK” 2003 年年出版 ; 1号 (8月) ~4号 (11月)

R. Memed Sastrahadiprawira (2009) *Pangeran Kornel*. Bandung: Kiblat (歴史的な小説)

<http://chiebukuro.yahoo.co.jp/>